

令和2年度 全県教育課程説明会 「音楽科」部会（中学校）

1 音楽科の改訂のポイント

中学校音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽文化と豊かにかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

3つの柱に沿った資質・能力の整理

- 生きて働く【知識及び技能】の習得
曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- 未知の状況にも対応できる【思考力、判断力、表現力等】の育成
音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- 学びを人生や社会に生かそうとする【学びに向かう力、人間性等】の涵養
音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

2 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）による「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順について

(1) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

学習指導要領の内容に基づき、「児童・生徒が学習中にどのような姿を見せたら目標が実現したといえるか」を想定し、児童・生徒の実態・学習活動・扱う教材を検討した上で、評価規準を作成する

観点	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
観点ごとの評価規準作成のポイント	<p>当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する【知識及び技能】の指導事項について、評価規準を作成。</p> <p>※事項イの「次の（ア）から（ウ）まで」の部分に、学習内容等に応じて（ア）、（イ）、（ウ）から一つ以上を適切に選択して置き換え、作成する。</p>	<p>【共通事項ア】と扱う領域や分野の事項アの「次の（ア）から（ウ）まで」の部分に、（ア）、（イ）、（ウ）から一つ以上を適切に選択し、評価規準として作成。</p> <p>※【共通事項ア】については、全ての題材で必ず位置付けなければ学習として成立しないため、「思考・判断・表現」の観点の趣旨の中に位置付けている。</p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に（表現及び鑑賞）の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</p>
◇第2学年及び第3学年 「B鑑賞」での評価規準の作成例			
「鑑賞」での評価規準例	<p>【知識】</p> <p>・事項イの（ア）、（イ）、（ウ）について理解している。</p> <p>※【技能】に関する評価規準は設定しない。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や、要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、（事項アの（ア）、（イ）、（ウ）について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>※【要素】については、その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択する。</p>	<p>音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている、</p> <p>※「楽しみながら」の部分は、「主体的・協働的に」に係る言葉であり、単に活動を「楽しみながら」取り組んでいるかを評価するものではない。主体的・協働的に取り組む際に「楽しみながら」取り組めるよう指導を工夫する必要があることを示している。</p>

【参考】内容のまとめりごとの評価規準（例）

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」中学校音楽 第2編 P.27～39

(2) 「**題材ごとの学習評価**」について (第3編★P.43～)

① 題材の目標を作成する

題材で取り上げる指導事項を確認し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」ごとに目標を設定する。

※生徒の実態、前題材までの学習状況を踏まえて作成する。

② 題材の評価規準を作成する

「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成する。

③ 「指導と評価の計画」を作成する

題材のどの時間にどの評価規準に基づいて、どんな方法で評価するかを整理する。

④ 授業を行う

観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

⑤ 観点ごとに総括する

観点ごとの総括的評価 (A、B、C) を行う。

(3) 事例概要 (第3編★P.50～)

授業の一連の流れを示した上で、評価の3観点について、「おおむね満足できる」状況 (B) の例、「努力を要する」状況 (C) への手立ての例を示している。

学年	題材名	内容
第2学年	「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」(★P.51～60)	指導と評価の計画から評価の総括までを解説
第2学年	「楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう」(★P.61～67)	「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例
第3学年	「音楽の多様性を理解して、世界の様々な合唱のよさや美しさを味わおう」(★P.68～74)	「思考・判断・表現」の評価方法の一例
第1学年	「音色や音の重なり方の特徴を捉え、リズムアンサンブルの音楽を楽しもう」(★P.75～82)	「知識・技能」の評価方法の一例

3 その他 (情報提供等)

【参考資料】

《文部科学省 国立教育政策研究所》

- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」★

《神奈川県教育委員会》

- ・「教育課程編成の指針」
- ・「カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価」
- ・「学習評価を踏まえた授業づくりの道すじ」